

# 誇りを胸に挑んだ挑戦の先に見えたもの —溶接競技会で磨かれた、技術者たちの歩みとその継承—

インタビュー#4



当社には、高い溶接技術を誇る溶接士たちがいます。岩手県溶接技術競技会では毎年好成績を収め、代表として全国大会へ13年連続出場。平成24年の初優勝を皮切りに、設備環境の整備や指導体制の強化を重ね、令和6年度の全国大会では、アーク溶接、半自動溶接の両部門で全国入賞の快挙を達成しました。競技会は技術の披露にとどまらず、世代を超えて技術を継承し、仲間と切磋琢磨する場でもあります。若手育成にも力を注ぎ、先輩たちの経験と知識を次代へつなぐ姿勢は、ものづくりの未来を支える原動力です。本稿では、溶接競技会への出場経験を持つ製造部の社員に、これまでの挑戦の経験と技術者の想いを語っていただきました。



令和6年度  
岩手県溶接技術競技会  
選抜大会・県大会  
4部門優勝



競技会風景



## 全国大会上位への歩み ～ 技術育成の変革



### 佐々木 規義

製造部長  
平成3(1991)年2月1日入社  
平成15年岩手選抜大会アーク溶接の部において当社初の入賞を経験。同じく、当社初の半自動・アーク2部門入賞経験者。また、当社で初めてJRすみ肉溶接技量資格を取得した社員の一人。高い溶接技量とリーダーシップにより今の製造部を長年導いてきた。現在は後進の育成に注力している。

溶接技術競技会には、岩手県No.1を目指し全国大会出場をかけ、一堂に会して競う選抜大会と、県内の若手社員を中心に各社で溶接したピースを提出し競う県大会の2つの部門があります。当社の選手たちは、それぞれの技能や担当分野に応じてアーク溶接の部、半自動溶接の部のいずれかにエントリーし、年に1度の一発勝負の競技会に挑みます。

私自身選抜大会で初めて優良賞を受賞したのは平成15年のことでした。そのときの出場は会社の指示によるもので、自発的な挑戦というよりどちらかといえば消極的なスタートでした。当時は出場する選手も少なく、日常業務に追われるなかで練習に十分な時間を割くのも厳しい状況でした。それでも出場するからには結果を残したいという矜持を持って臨み、選手として出場する他の社員たちと切磋琢磨しながら就業時間外に練習を重ねました。あのときの努力と経験が今の自分の技術的基盤をつくったと感じます。

近年では、当社の選手たちが全国大会の常連となり、全国でも安定して上位成績を残せるようになってきました。その背景には会社による練習環境の整備が大きく寄与していると思います。照明がLEDに換わって工場が明るくなりましたし、第二工場に専用の溶接練習場を新設し、集塵装置も設置して空気環境を改善、また安定した電源設備を導入して電流・電圧の変動が少なくなり、溶接品質の安定と技術向上につながりました。アーク溶接に関しては、メーカーに特注した特別仕様の溶接機器を導入してもらい、選手たちのモチベーションアップにもつながりました。

当社のみならず業界全体で若手溶接人材の確保と育成が大きな課題となっています。溶接という仕事は体力的な負荷が大きく、技術取得にも時間がかかるため、敬遠されがちという現状があります。見て覚えろ、という時代は終わり、現代ではとくに丁寧な技術指導が求められます。半自動溶接については年々機械が進化して扱いやすくなっていることに加え、菊池次長はじめ、藤原係長、畠山主任といった次世代の技術者たちが全国大会に出場して入賞するなど、目覚ましいレベルアップを見せており、指導者としても安心して任せられる体制が整いつつあります。しかしアーク溶接に関しては、職人技のような繊細さが必要で機械の取り扱いも難しく、言葉だけでは伝えづらい難しさがあります。だからこそ、技術を伝える側が根気よく向き合い、時間をかけて丁寧に伝承していく姿勢が何より大切だと痛感しています。



## 自身の全国大会の経験を、若手育成の土台として



### 菊池 淳哉

製造部次長

平成10(1998)年4月1日入社

平成19年岩手選抜大会アーク溶接の部での優秀賞を皮切りに、平成24年岩手選抜大会半自動溶接の部で当社初の最優秀賞を受賞し全国溶接技術競技会初出場。その後も岩手選抜大会最優秀賞2回受賞し、当社の半自動溶接のレベルを全国レベルへ引き上げた先駆者。現在は製造部全体の工程管理や後進の育成を中心に、幅広い業務を担当している。令和2年に国土交通大臣顕彰を受賞している。

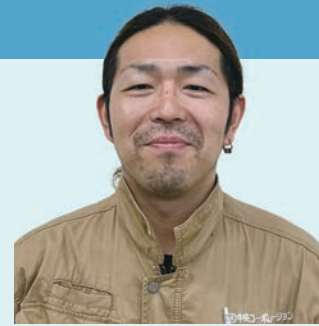
私は平成15年頃から県大会に出場し始めました。当初は練習も熱心とは言えず、結果も伴いませんでした。そんな中、平成19年にアーク溶接で優秀賞(2位)を獲得したことで、自分の中でスイッチが入り、本格的に競技と向き合うようになりました。当時、選抜大会はポリテクセンターで行われていましたが、溶接機は施設のものを使用しなければならず、普段使っている溶接機とは仕様が異なりなかなか手応えが感じられませんでした。それでもなんとか結果を残すことができ、会社から練習専用溶接機を購入していただきました。その後、平成20年頃から社内に専用の溶接練習場が整備され、環境が少しずつ整っていききました。

設備の充実により本格的な練習に取り組めるようになり、平成25年には半自動溶接の部で優勝し、初めて全国大会に出場しました。全国大会出場は当社初の快挙でした。しかし、実際に全国大会へ出てみると全国トップレベルとの圧倒的な差を痛感しました。上位に入る選手たちは技術も集中力も桁違いで、失敗が一切ありません。また、全国大会の開催地は毎年変わり、その年は名古屋で開催されたのですが、東日本とは電源周波数(ヘルツ)が違い、競技中も戸惑うことばかりでした。それでもこの経験は大きな財産となりました。得た気づきや技術を社内で共有し、若手を育てる土台となっています。

溶接の技術やノウハウについては上の世代が教えられることは惜しまず伝えています。最終的には本人が自分なりにアレンジし、やりやすい方法で取り組んでもらうようにしています。教え方も柔軟に対応しており、目で見てもらって教える時もあれば、実際に一緒に道具を持ち二人羽織のような形で感覚をつかんでもらうこともあります。ただ、溶接はセンスが問われる作業で、感覚が合う人は比較的早く習得できますが、なかなか上達が難しい人もいるのが現実です。鋼材との距離感や角度、作業スピード、機械の扱い方などは、実践と練習を通じて体得するしかありません。

私が指導した後輩たちが、さらに次世代へと技術を継承してくれることを期待しています。わからないことは素直に先輩に尋ね、今の自分を超越する努力を重ねてほしい。そう願いながら日々指導にあたっています。

## 悔しさを糧に積み重ねた練習、そして全国へ



### 佐々木 国彦

製造部課長

平成14(2002)年4月1日入社

平成26年岩手選抜大会アーク溶接の部で当社初の最優秀賞を受賞。当社で唯一のアーク溶接の部全国経験者であり、2年連続で岩手県代表に選出、通算6回の全国大会出場を誇る。  
全国大会：平成27年アーク溶接の部18位(優良賞)、令和6年アーク溶接の部17位(優良賞)。

入社当初は人手不足の中、毎日のように厳しい指導を受けながら溶接技術を習得しました。業務終了後の遅い時間に、冬期の寒い中で練習を重ねたものです。しかし頑張っても本番では入賞止まりでなかなか優勝には届きませんでした。

転機は平成26年でした。大会課題が5年ごとに変更される中、新しい課題に集中して取り組み最優秀賞を獲得、平成27年にアーク溶接の部では当社初めての全国大会出場を果たしました。平成25年に菊池次長が半自動の部で全国大会へ出場してから社内にも全国大会の情報が入るようになり、大阪大会においては電源周波数(ヘルツ)の違いもあり、事前に会場で練習させてもらい本番に備えられたのは大きかったです。菊池次長、私、藤原係長、畠山主任と続けて全国へ出場したことで、社内の溶接レベルが一気に上がった感じがします。全国大会出場という明確な結果と新たな目標が出たことにより、会社からの支援も本格化し、練習環境も格段に向上しました。そうした後押しも受けて、令和6年度高知大会では全国17位入賞という自己最高成績を取ることができました。

先輩たちに叱咤激励を受けながら悔しさと向き合い、休日も返上して練習してきた経験が今の自分を支えています。しかし次代を担う若手と向き合う中で、世代間のギャップを感じることも正直あります。技術を教えることは惜しみませんが、私がかつて先輩に向かっていったような意欲の強さが伝わってきません。自分は職人気質が強すぎるのかもしれませんが、「鉄と話をしながら溶接をする」と言うと思われられるかもしれませんが、実際に溶接をしながら鉄の状態を感じ取り、力加減を調整していく。そうした対話が成り立った時に美しい溶接が完成します。そのような経験を伝え、「自分を越えたかったら俺より練習しなきゃダメ」と話しても、なかなか響かないもどかしさを感じています。

来年から競技課題が変更になるため、今年10月の富山全国大会は出場選手にとって5年間の集大成となります。全国の選手達は過去最高のパフォーマンスをするはず。私自身も負けずにこの大会にふさわしい挑戦をしたいと考え、日々練習に励んでいます。

## 大会出場を後押しする練習環境の整備

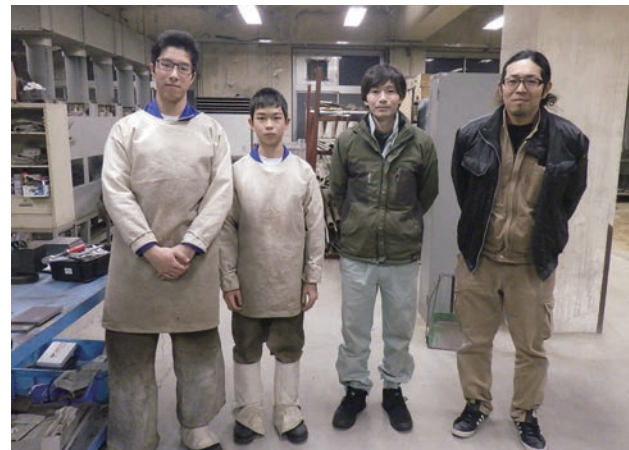


溶接練習場



ボード

令和5年3月1日、旧溶接練習場が第二工場へ移設され、半自動溶接機3台とアーク溶接機3台が新たに導入されました。6つのブースは半個室として仕切られ、各ブースには集塵機ダクトが新設、練習環境が一層整備されました。また、溶接大会の入賞結果を掲示するための一覧ボードも設置され、技術向上と成果の共有が進められています。



溶接出前授業(釜石商工高等学校)



令和6年度全国大会ダブル入賞表彰式





**藤原 裕城**  
製造部製造一課製造1係長  
平成20(2008)年4月1日入社  
当社最多の全国大会出場者、3年連続で岩手県代表に選出、通算7回の全国大会出場  
全国大会：平成30年半自動溶接の部20位（優良賞）、令和3年（コロナのため翌年開催）半自動溶接の部5位（優秀賞）、令和5年半自動溶接の部12位（優良賞）、令和6年半自動溶接の部7位（優秀賞）。

## 支援体制と、全国の仲間との交流が広げた可能性

「菊池次長を越えたい」という思いが私の原動力でした。平成22年に競技を始めた当初は常に頂点に立つ菊池次長に抑えられ2位が続いていました。次長の競技会引退後に念願の初優勝を果たし、それ以降も安定して好成績を取っています。今も岩手県内では誰にも負けないという気持ちで練習を続けています。

平成26年に初めて出場した全国大会（秋田大会）は緊張のあまり、気がついたら大会が終わっていたという印象です。その後、平成30年の山口大会に出場し、自身2回目の全国大会で20位入賞を果たしました。菊池次長のやり方を観察し、自分なりに取り入れた成果だと考えています。翌年の沖縄大会では上位を狙いすぎて結果が伴いませんでした。しかしこの年から、他県選手との交流が始まり、技術や意識の幅を広げるきっかけとなりました。その後も試行錯誤を重ね、令和3年度は自己最高成績の全国5位入賞、令和5年度は全国12位、翌令和6年度は全国7位と、しっかりと成績を残すことができました。当社は全国上位の常連企業とは言えないため、トップ選手と情報を共有することの意義はとても大きく、学びも多いです。現在は社内だけでなく全国に仲間がおり、岩手県選抜大会でも強い気持ちで臨み、全国の頂点を狙っています。

以前は業務後の練習でしたが、現在は会社の支援により勤務時間内にも練習ができるようになりました。大会と同じ時間帯での練習は体を慣らすという点でも大きな利点があり、技術向上だけでなく、本番に近い環境で取り組むことができるという点で非常に重要です。全国で戦うにはできる努力をすべて尽くす必要があります。こうした支援体制により、後輩たちも着実に成長しています。

また、高校生のものづくりコンテスト溶接部門で全国大会が開催されるようになり、岩手県でも高校生を対象とした溶接大会が行われるようになりました。岩手県溶接協会と連携して、大会に先立って工業高校を訪問し、選手となる生徒たちに溶接技術や安全管理などの指導を行っています。この活動を通じて溶接技術を若い世代へ引き継ぎながら、後進とともに日本一を目指し続けたいです。



**畠山 希一**  
製造部製造一課製造2係主任  
平成28(2016)年4月1日入社  
主に本溶接作業に従事、溶接技術競技会にも出場、令和4年には第67回全国溶接技術競技会へ出場し、全国10位（優良賞）を受賞。

## ご指導への感謝とともに歩んだ全国への道のり

令和元年に初めて選抜大会に出場し、苦戦はしましたが、岩手県4位の優良賞をいただくことができました。入社当時から先輩方のご指導や、会社が整えてくださった環境のおかげで、充実した練習に取り組むことができたことがこの結果につながったのだと思います。本番では緊張もありましたが、気持ちを強く保ち最後までやり抜くことができました。その後も県内で経験を重ね、令和4年には念願の岩手県大会優勝を果たし、全国大会に初出場しました。その前年に全国5位を獲得している藤原係長を抑えて出場する以上、何の成果も得られず戻ってくるわけにはいかないと、まずはメンタル面で負けないことを最大の目標とし、死に物狂いで本番に挑みました。事前練習では仕上げた溶接ビードを藤原係長に見てもらい、「全国11位くらいのレベルだね」と声をかけて頂き、実際に全国10位という結果を残せたことは大きな自信となりました。

大会と仕事は別物ですが、日々の練習で培った技術は業務にも活かてきます。大会では技術の極みを目指しますが、仕事ではコストや納期との兼ね合いもあり、合格基準を満たせば十分という場合もあります。お客様によって求める品質レベルも異なります。職業病のように通常の仕事でも美しい仕上がりを追求してしまう者もいますし、私自身も自分のビードに納得いかないと、つい手直ししてしまうこともあります。大会での練習が今の技量につながっていて、技術者として成長する良い機会になっていると感じています。仲間たちと高め合いながら、今後も共に成長していければと考えています。

技術や知識の面ではまだまだ足りない部分も多いと自覚しています。今後も藤原係長始め先輩方が注いでくださった時間とご指導を無駄にすることのないよう、次世代にもしっかりと伝えていけるよう精進していきたいです。

## I . 岩手県溶接技術競技会 選抜大会 成績一覧

年	大会区分	部	賞/順位	名前
平成15年度	第44回	【半自動溶接】	優良賞	佐々木規義
平成16年度	第45回	【アーク溶接】	優良賞	佐々木規義
平成17年度	第46回	【半自動溶接】	優良賞	平賀 義邦
平成19年度	第48回	【アーク溶接】	優秀賞	菊池 淳哉
平成20年度	第49回	【アーク溶接】	優秀賞	佐々木国彦
		【半自動溶接】	優秀賞	菊池 淳哉
平成21年度	第50回	【アーク溶接】	優秀賞(3位)	佐々木国彦
		【半自動溶接】	優良賞(4位)	菊池 淳哉
平成22年度	第51回	【アーク溶接】	優秀賞(3位)	佐々木国彦
		【半自動溶接】	優良賞(5位)	菊池 淳哉
平成23年度	第52回	【半自動溶接】	優良賞(6位)	菊池 淳哉
			優良賞(7位)	藤原 裕城
平成24年度	第53回	【半自動溶接】	最優秀賞(1位)	菊池 淳哉
			優良賞(5位)	小松 真二
平成25年度	第54回	【アーク溶接】	優秀賞(2位)	小松 真二
		【半自動溶接】	優秀賞(2位)推薦	藤原 裕城
平成26年度	第55回	【アーク溶接】	最優秀賞(1位)	佐々木国彦
		【半自動溶接】	優秀賞(2位)	藤原 裕城
	優秀賞(3位)		大竹 康貴	
平成27年度	第56回	【アーク溶接】	優秀賞(2位)	大竹 康貴
		【半自動溶接】	最優秀賞(1位)	大竹 康貴
	優良賞(5位)		藤原 裕城	
平成28年度	第57回	【アーク溶接】	優秀賞(2位)	佐々木国彦
		【半自動溶接】	最優秀賞(1位)	菊池 淳哉
平成29年度	第58回	【アーク溶接】	最優秀賞(1位)	佐々木国彦
			優秀賞(3位)	阿部 悟志
		【半自動溶接】	最優秀賞(1位)	菊池 淳哉
			優秀賞(2位)	藤原 裕城
			優良賞(7位)	石川 侑人

## II . 全国溶接技術競技会 成績一覧

年	大会区分		部	賞/順位	名前
平成25年度	第59回	名古屋大会	【半自動溶接】	-	菊池 淳哉
平成26年度	第60回	秋田大会	【半自動溶接】	-	藤原 裕城
平成27年度	第61回	大阪大会	【アーク溶接】	優良賞(18位)	佐々木国彦
平成28年度	第62回	函館大会	【半自動溶接】	-	大竹 康貴
平成29年度	第63回	横浜大会	【半自動溶接】	-	菊池 淳哉
平成30年度	第64回	山口大会	【アーク溶接】	-	佐々木国彦
			【半自動溶接】	優良賞(20位)	藤原 裕城
令和元年度	第65回	沖縄大会	【半自動溶接】	-	藤原 裕城
令和2年度	当社は【半自動溶接】藤原裕城選手が出場予定だったがコロナの為開催中止に				
令和3年度	第66回	三重大会	【アーク溶接】	-	佐々木国彦
			【半自動溶接】	優秀賞(5位)	藤原 裕城
令和4年度	第67回	青森大会	【アーク溶接】	-	佐々木国彦
			【半自動溶接】	優秀賞(10位)	畠山 希一
令和5年度	第68回	茨城大会	【半自動溶接】	優良賞(12位)	藤原 裕城
令和6年度	第69回	高知大会	【アーク溶接】	優良賞(17位)	佐々木国彦
			【半自動溶接】	優秀賞(7位)	藤原 裕城
令和7年度	第70回	富山大会	【アーク溶接】	未発表	佐々木国彦
			【半自動溶接】	未発表	藤原 裕城

※朱書きは優勝

※朱書きは優勝